

外部委員からの意見及び取組事例

経営協議会

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成22年4月28日	・戦略的な資源配分後の検証について	・戦略的な資源配分の実施と中間評価・事後評価において、学部等については事業費の記載がされているが、病院については経費の記載がなく、人的増員の場合にも金額が記載されていてもよいのではないか。	・今後は、病院についても人件費を経費として計上する等改善する。	H23.3
	・その他	・授業評価のアンケート結果について、学生からよく勉強ができる環境がある等良い評価に対し、一般教養は要らない、得るものがない等の授業内容を公表する方法について検討を要する。	・一般教養は医師を形成する上でも必要なことから、重要性を認識するように指導していく。また授業評価の改善等を進めていく。	H22.5
平成22年6月9日	・平成23年度収入・支出概算要求について	・平成25年以降の借入金償還予定額について、現在の10億から15億レベルに増加が見込まれ、病院の診療報酬等の収入増加を見込んでも厳しく、新しい事業も実施できないのではないか。	・中期的な損益予測と資金管理計画の課程で、しかるべき対応を行っていく。	H22.7
平成22年7月28日	・第2期中期目標期間における損益予測と資金管理計画について	・財務諸表から経営状況を判断するうえで附属病院と教育研究部門は質を異にするものであり、別々に計上した数値を長期的に比較する必要がある。	・法人化後の数値を参考に、作成することについて検討する。	H23.4
	・コスト構造改革に関する平成21年度の実績報告について	・コスト削減について、「アイパッド」を利用する等により、コストを押さえることができる旨の提案があった。	・「アイパッド」等の利用として、ペーパーレス化の会議として平成22年9月の役員懇談会を初めとし、役員会・教育研究評議会に実施した。	H22.9
		・病院収入に関する対策において、目標数値と実績に違いがあり、当初目標を達成できていないことにならないかと指摘があった。	・目標が達成できていないことに関しては真摯に受け止め、今後の目標数値について十分議論を行い設定を行う。	(平成23年度対応)
	・平成21年度決算における財務情報分析について	・各大学から提出されている指標について、統一性がない項目もあり、比較が難しい。	・本学での経年比較は行っているが、他大学との比較においては、例えば病院での一般管理費と診療経費の取り扱いが異なっている等もあり、一部については財務諸表から単純に比較することはできない。しかしながら、比較可能な範囲で実質的な指標分析ができるよう努力する。	(平成23年度対応)
平成22年11月4日	・平成22年度財務状況等(上半期)について	・減価償却費の計上漏れについて指摘があった。	・1,000万円以上の大型設備、建物については、四半期毎の導入計画のチェックリストを策定した上で、計上漏れが無いよう対策をとる。	H22.12

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成22年11月4日	・平成22年度財務状況等(上半期)について	・病院収入が上がる一方で、人件費や設備投資等の支出もそれに伴って増加しており、適正規模を見極めていく必要がある。	・平成23年2月に現状の厳しい経営状況を踏まえた中期的な損益予測と資金管理計画を作成する予定である。特に、医療材料・薬品費についてはコストダウンを図る等の取組を強化する。	H23.4
	・平成22年度資金運用の実施について	・各金融機関の大口定期利回りの公表については、取り扱いを注意するよう指摘があった。	・各金融機関の大口定期利回りについては、公表しないこととした。	H22.11
	・滋賀医科大学評価指標について	・他の国立大学でも同じ評価指標を持っているのであれば、比較するよう提案があった。	・本学の指標は独自のものであり、まずは学内で骨格を作り、その上で他大学とも比較分析できるよう展開していく。	H22.11
	・その他	・国立大学法人においては、経営協議会の外部委員の意見が重要視されているが、本学からのニュースレターに経営協議会のことが掲載されていないことから、もっとアピールしても良いのではないかと指摘があった。	・今後、状況に応じて掲載していく。	H22.11
平成22年11月24日	・人事院勧告への本学の対応について	・本対応により実施した場合に発生する余剰金の用途等の扱いについて質問があった。	・今期人員増加及び平成22年6月期の特別勤務手当等に対応する。	H22.11
	・その他	・学生の授業評価における教養科目のアンケート結果の項目整理など、公表方法の工夫や教養科目の重要性について、大学の姿勢を明確に学生に伝え、アンケートの公表時にも発信することが必要であるとの意見があった。	・教養科目の評価には、現在、受講中の学生の評価に加え、高学年の学生が振り返って評価出来るようなアンケートの実施を検討すること、医療人を養成する大学として特色ある教養科目の実施を外部委員や卒業生の協力も得て、更に進めていく。 ・授業評価で外部委員から指摘のあった学生の遅刻の取扱いについても、厳格な指導を行うよう改善に努める。	H22.11
平成23年1月26日	・平成22年度財務状況等について(第3・四半期)	・本学の財務に関する主要事項について詳細な分析をされているが、浜松医科大学等他大学との比較も示せるよう提案があった。	・四半期でのデータ収集は難しいことから、決算後の比較を示せるようにする。	(平成23年度対応)
		・比較検討するのに絶対的數字より、むしろ比率が重要である。収益と費用の伸び率で、費用が上回っている問題点の指摘があった。	・保険請求上の問題や急激に増えている薬品費及び材料費等直接診療経費については今後も抑制の努力をし、経費を抑えるためにも他大学と医薬品等の共同購入をすることや収益・費用の伸び率をグラフ化する等検討していく。	H23.4

開催日	項目	出された意見	大学側の対応	対応月
平成23年1月26日	・平成23年度予算編成の基本方針について	・文部科学省の大学関連の予算が6年ぶりに増加したとの報道を受け本学の状況について質問があった。	・本学の標準運営費交付金は、昨年度の1.4%から1.3%となるものの約5千万円の減額となる。しかしながら、特別運営費交付金の措置を含めると、交付金の総額は前年度に比べて増えることになる。	H23.1
	・その他	・教養科目の重要性について、IDE大学協会の特集で取り上げられているように、工学や医学等の理系を中心にした学生は専門教育を就職のための手段として考えており、直接関係のない教養教育には関心を示さないことや、ある大学の学長から現在の大学の教養教育は効率的に仕事が行われる能力につながる教養のみ身に付けさせることに力を入れすぎて、教養の重要性をあらためて見直すべきではないか、またデザイン・音楽等以外に囲碁の活用としてプロの授業を設けているユニークな大学があるとの紹介があった。	・本学の教養教育について、参考にする。	H23.1
平成23年3月23日	・平成23年度 年度計画について	・研修制度の変更による大学病院への医師の定着率及び地域医療のあり方について質問があった。	・本学でも一時期研修医が大変減少したが、徐々に回復してきており、東近江地区における総合診療部門を作り強化していく。	H23.3
	・平成23年度 年度計画予算案について	・東日本大震災の医療支援等にかかる予算措置の対応について意見があった。	・災害対策経費としてあらかじめ予算化することは難しいが、予備費等により必要に応じて対応する。また、患者対応のための備蓄以外にも、教職員を支援する備蓄も重要であり、今後適切な容量等については検討していく。	継続
	・平成23年度 病院再開発に伴う借入金について	・長期借入金は今ピークを迎えるのはベストな時期と考えられる。長期金利の動向は予断をゆるさず、今後借入額が減少傾向にあることはよい結果として捉えられるのではとの意見があった。	・今後も、長期金利の動向を確認していく。	H23.3
	・第2期中期目標期間における損益予測と資金管理計画について	・附属病院の収益や診療経費の予測について、病院のセグメントとして明確でないことの指摘があった。	・病院部分の費用と収益をグラフで全体の比率から表せるように検討する。	H23.4
		・支出を抑制する面において、例えば建築において国公立が発注する場合、割高になっていると思われ、見直しの余地がないのかとの意見があった。	・建築にあたり、設計のコンサルティング会社等からのアドバイスを受け、適切なコスト算出を考える。	H23.3